

# ふる里は人生の原点

東内原克憲

先日、久しぶりに島に帰省した折、白保小学校前を通りかかる。母校白保小学校前の道路沿いに「白保小学校130周年」の横断幕が掲示されている。改めて、伝統と歴史のある学校に感慨深い喜びを感じた。今も時々母校の校歌を口ずさむが、歌詞に村の発展と心意気を強く感じる。白保村は「自然豊かな芸能の島」と言われている。130年の歴史の中には多くの優秀な人材を輩出してきた。特に教育界、警察官、芸能界での活躍は突出している。付け足すとスポーツも昔から盛んであった。郡の陸上大会3連覇、毎日駅伝の10連覇等もある。白保の人にはスポーツ好きである。負けず嫌いである。おおらかである。と私は思っている。あだ名が多いのも白保の特徴ではないか。親しみを込めて呼んでいるのではないか。ちなみに私は団塊の世代である。戦後の貧しい時代に生まれた。思い出としては、幼稚園教室は茅葺の土間いわゆるパニック教室であった。小学校時代は、貧しい時代で、例えば、履物も草履ばき、洋服も付け足しの服を着た。食べ物主食は芋であった。んな汗(汗物)に芋でお腹を満たした。三食も満足にはなかった。学校生活は勉強した事より、運動会のかっこや女の子とダンスを踊ったことが楽しい思い出として残っている。

結びに130周年の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ更なる飛躍に向け、先人の教育活動に対する熱意と苦勞に感謝するとともに白保小学校のますますの発展をお祈り申し上げます。(浦添市)

長、飽食時代と時代の変遷を経験できたのは貴重な経験だと思っている。白保小学校も130周年を迎え、変遷をたどってきたが、近年、立派な校舎もできて環境も整備された。立派な教育環境の下で学ぶ子どもたちに大いに期待したい。そこで次代を担う子どもたちに学校の伝統と歴史の素晴らしさ感じつつ学んでほしい。白保健児の意気を示してほしい。

校庭の南側の梯梧の木、ガジュマルの木、あここの木、いわゆる3本木は白保小学校の歴史を見て来たのではないか。振り返ると戦後の物資の貧しい時代、戦後復興、高度経済成